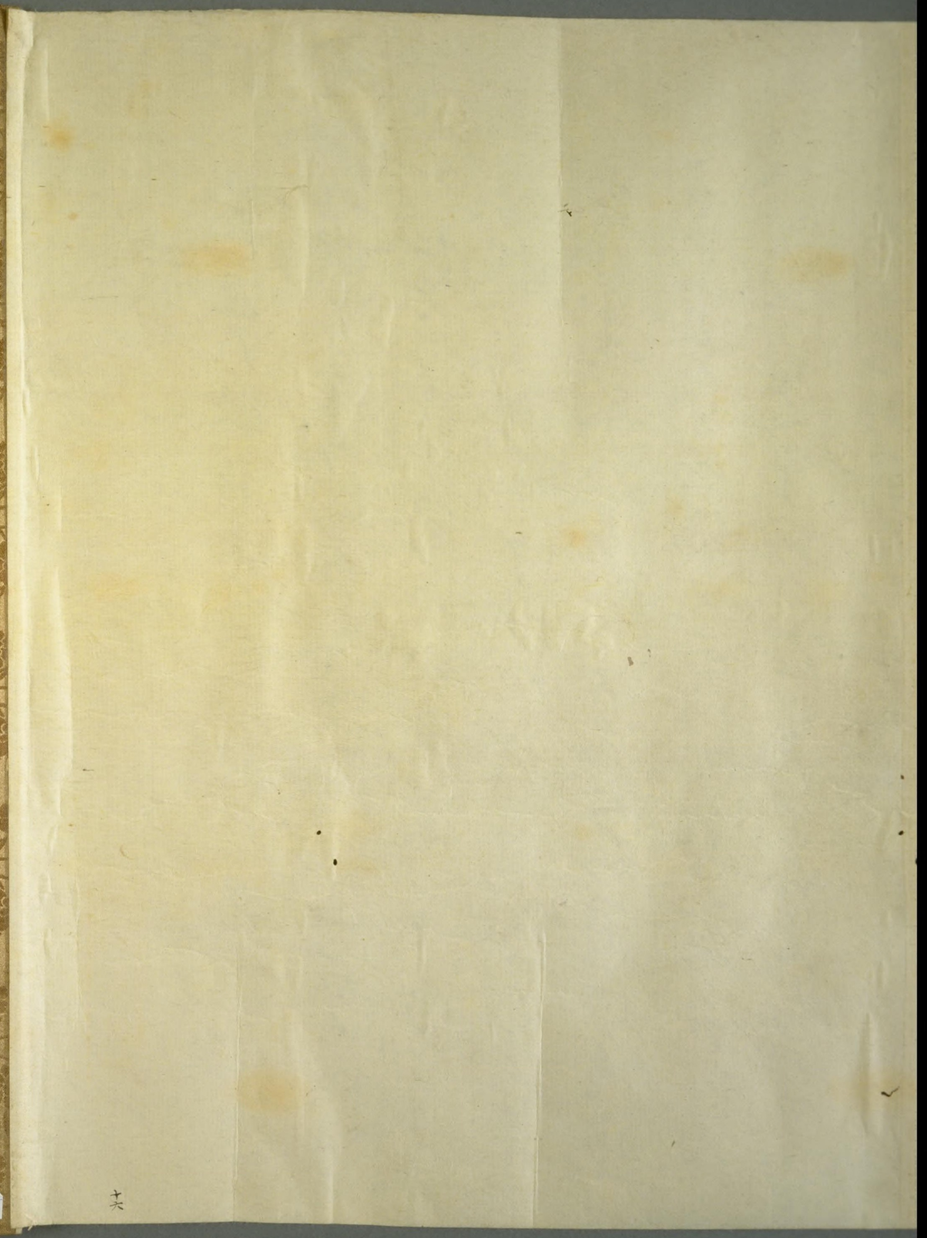
春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１６－００１

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１６－００２



WA 31
13
(16)

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１６－００３

皇國書圖

帝國圖書館

笠置乃解脱上人ハ三明の極果うて一寺
の眼目をもつかはつく交流の薫誼をいとな
て法のまり不思の素意をとゝ事てゝ
信仰いとなきより神明光をかゝはし
給ふ建久六年九月の比大和國宇陪郡
ゝくと人病悩のつゝいてに大明神法

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１６－００４

て法華経一部の素意をとき給へり
伝教いまだ記し給はざりしかば神明光をかがやかし
給き建久六年九月の比大和國宇陀郡
まくさ人病悩のつゐでに大明神法
詣宣の事ありけるに病者仏の中に
も大明神こそつゐに給ひ仏
をうしなふ事をなげきたまふ事なかりしと
れと聊不信をいたしけるさる程に
やがて又法詣宣あるまて汝いまだ
不信者なり神明をうやまはるべ
乃加護によりて迦葉尊現ぜ給ふ
をとり時尭を尊ぶ法
傍者刹の執心
に執心廣道
ぶる事あるべし三三祈んあるべき
なりなりかたち人天
を人を化儀
子を引く宿縁
なりと
教化せ事も我家なり仏種の縁
より時瑜伽論の文
又金剛を伝せ事
の文なりなる
對

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１６－００５

よるべ時瑜伽論乃文をひろひ侍てゝ
又舎利を伝せ事ゝ氏帰無漏界
の文をよりてなりとなむ作らまくゝ對
揚の小まにむとひて我昔霊鷲山にて
釋迦如来乃説法を聞き侍ゝ信順
またりはなるをいとてかゝ我こゝ我さらの
ん面とゝ侍ゝ

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１６－００６

笠置殿若葉丸結願に春日大明神を勧
請奉て国つくりこうた次第小社を一宇造
営す建久七年九月廿七日の東国明神を引
率して當社に参詣申預申給ふ所に
候せさうらへと當国丸氏人小和田せうの法山
乃御神の授申給人さうのこさうせうの所へ
氏人まこの丸法神の授申給ふ一御殿乃

国立国会図書館

春日権現験記　20軸　WA31－13

16－007

率して當社に參詣せられ候
候せられそれを當社氏人不知不せられ候山
の御榊の枝を氏人そのこさせられ候て
氏人まの社榊の枝をもとさせられ一御殿乃
宝前にて祝をゆきせられのち上人御榊沈
けとりて南門の橋はれ乃西廊に置
てはつりてはれ若宮の御前にまいられ榊
殿に付りてまん中にんるに寄せ詠をられ
ける

我ゆえんゆきてはかの後んとて志らしるべく
又雅若経といひけり

ゆえて上人下向きに新殿に帰殿乃和はれ
とたてまつはのよ物のうちれわのやうに送
て同道ゆきて慎と御拝ひすてさす
屋うに高殿り又さきれやうにをのてう
新辺の御殿の社あんうきのハ
三社をうるはいかもうはく若宮社殿を西廊
して又大宮社御前へまいりて後同的志恵
房の榊をもひうるせ給ぬと送て上人の所と
ハうはとるの思さてく志恵房をもたて
はつるまてく一度も屋はたはり者のさ知へ
七八度屋はさてく楽はりけ世度上人送恵
月書社御殿新勧はいてく書てはけ
ハこ通小大明神の社てはいつれの

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１６－００８

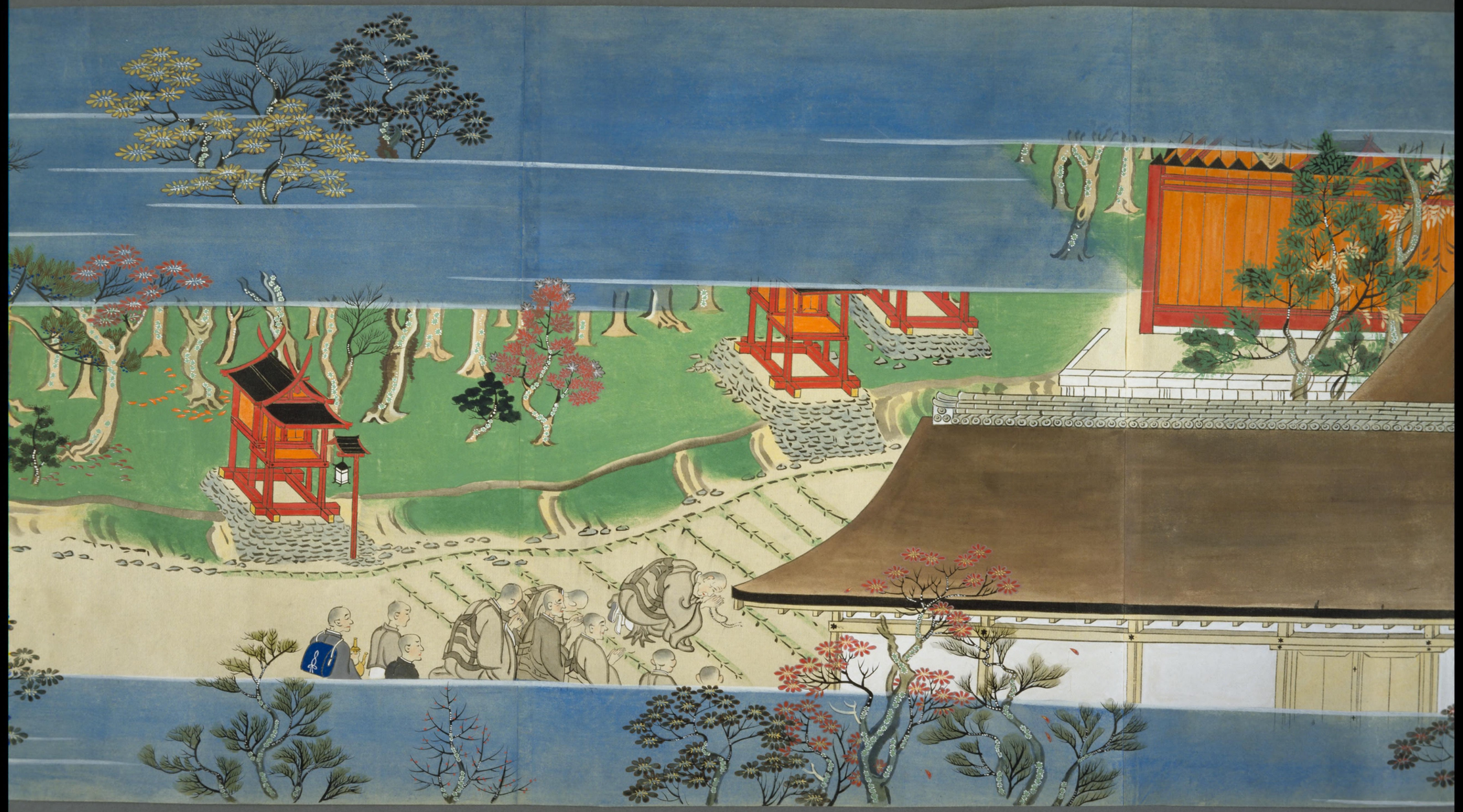
七八度ばかりまゐりけるに度々上人参あ
り参詣し御供し給へり観弘いとまをもとめけ
ハこと遠ク大明神のおはしまし給なるはいつれの
所ぞやとたづねられ侍りし又同明神の勅答
爰ハ形造の社乃うちに山をあゝ庶二
郎あり彼ハ一丈ばかりなる七尺ばかりなる
つねに七さ五尺のものと見えたり武内上人
参詣ありて天の中に御供あるべく和尚を添せ
させ給ふ

我をもて礼拝迦葉仏の世に出給
さやうにさ有ければ
とて又同法師まゐらせ給ひ
鹿島の宮にまゐらせ給て参詣ありけ
るに
うつ柿ハ昔ハ人のもいまハ人もいまハ
ク志ハれ給
とぞんじ給ひ

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１６－００９



国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１６－０１０

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１６－０１１

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１６－０１２

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１６－０１３

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１６－０１４

西治元年七月解脱上人笠置の寺を出て
奥をゝくなやゝ給ふに八月廿二日周防さの
里よりの常盤ゝ山をゝ紅いろ深く彩り
乃紅葉あつ色をいそ紅葉をさらに
浄衣を着して春日明神乃御前とこ

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１６－０１５

まよりの常行をあらためて紀いそ行く房中
乃記をあつめあいそ紀居所をさうらい
浄衣を着して大原野乃御座とれり
くろく同明ともに灌水して香呂を立て供養を
ささげくて礼あり乃ち明よいそく

南無恩徳広大釈尊如来
南無菩提妙典成唯識論
南無護法ホ十大菩薩戒賢云菩薩
導高祖大師

甚深香爐をさしけくて釈迦弥勒ハ左右れ
坐す〜本師ハ円座ハ右ちに弥勒を
〜くせる位〜給霊山和尚ハ左ハ二尊と
の居て又御弟子たちく朗詠なるの座うに詠て
中宗乃手伝御讃美ありその御詠ハ云
妙也微妙也釈迦ハ左ハ弥勒ハ右ハ
甚深也深〜ていよ〜深
又ハ行せら迦て云我宗法相中宗ハ伝来つれ
くあるて如来滅度五百歳の〜ち慈氏
瑜伽園より〜て〜ち〜演出〜給無著ハ登
地乃菩薩親ハ御行大士乃弟子一戒賢ハ当
代法師云帰ハ華嚴中帰の称を東方に意味
供遊大師ハ等覚の形を表具ハ化す云ふ可
法相宗ハ他不ま〜あ我寺に〜ま我ち

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１６－０１６

代法師言葉ハ常帰の称を東方に意ま
供遊大師ハ等覚の形を長夏に化す云ふ可
法相宗ハ他不ま可ー多ー我寺にとゝ海ー我ち
学徒志中にあり名ま玉法焼といさゝん
やめてゝ成さるれしー時歌いうゝ打ー この志
たゝ月ー四ゝとちめうゝ名宿縁の如く
不可ま人さ拾とも毎ゝひおちたのゝまゝ海ゝ
常ゝる極ゝて たゝ分事ハ改さ拾ゝも知ゝを
粉ゝ毛ゝ為ゝ新を いま毎ゝく正法の金
をゝゝてゝ苦海乃ゝゝに志ゝめん
ゝす中古学乃学武法懺ゝゝ武ハ嬢姫
ゝゝて多ゝゝ志ゝ示あゝも他ゝのいゝ
ゝゝ多れのゝゝゝまゝ法ゝゝたゝせ
如蔵後大徳宿世の新力によりて教法を祇
ゝゝむゝ志ゝゝゝゝ教宗ゝゝゝゝ海
ゝゝん乃ち毋出いゝゝ切をゝゝあや海ゝあゝく
徳ゝゝん事ゝれれゝ経を若殊後命乃
製作ゝゝゝゝ後志ゝ行人あゝ行くやハ行
すゝいもんや末代ゝ事ゝや但ゝと人乃
志ゝゝゝハゝ口称念仏乃行人海ゝれゝゝ
行ゝいゝゝやゝに念仏ハ一筋ゝすゝて何ゝゝ海
後古往学毋ゝゝゝゝゝ方便ゝゝ志
神ゝ示ハ仏法ゝゝゝゝ捨ゝ我ゝゝすゝ
海世ゝ梵尺四王ゝ於ハ仏の名勅をう

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　ＷＡ３１－１３

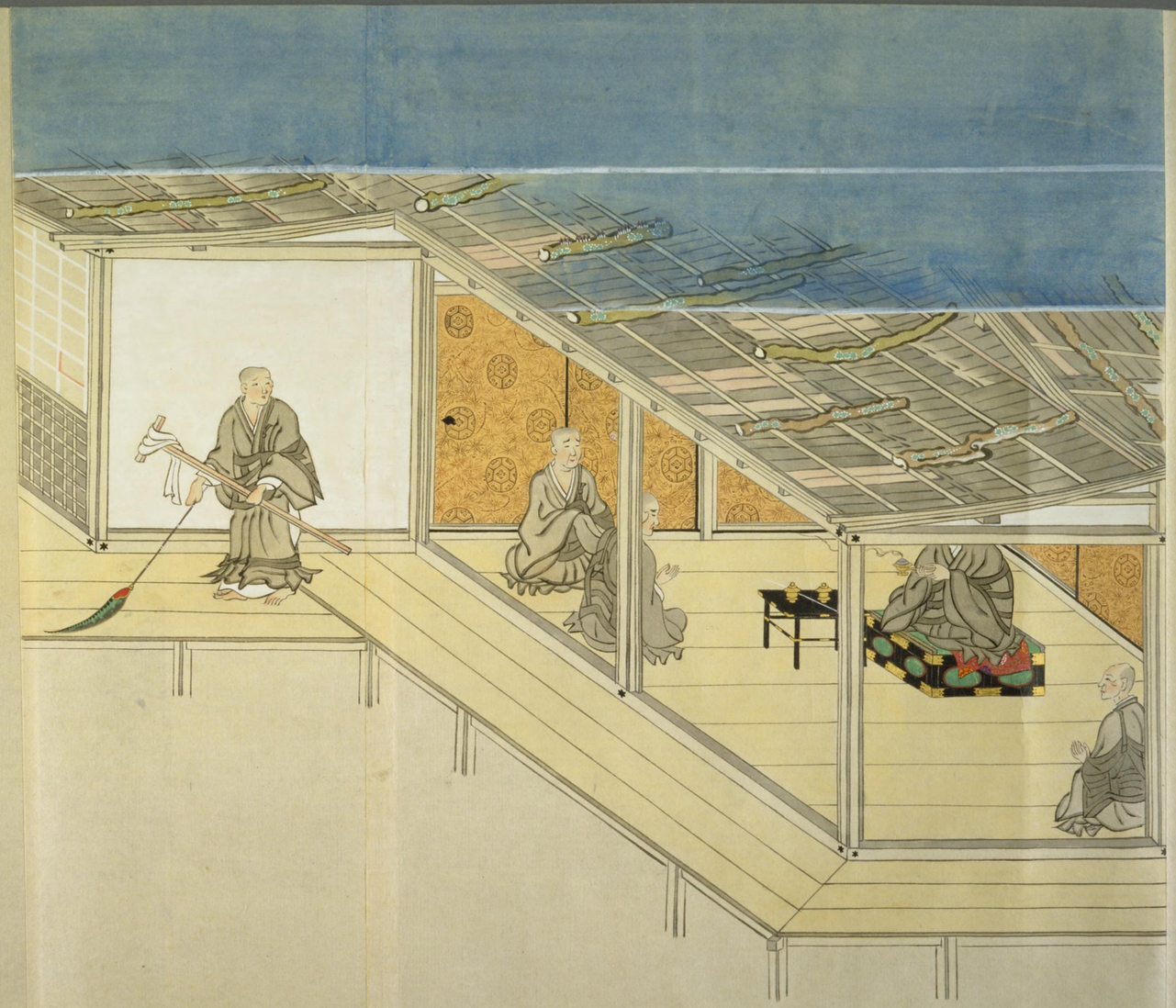
１６－０１７

おほいかにしやうに念仏ハ一萬反まて何生をへ
行ぬとも学問をしつれハ方便となりて
神ハ佛法をまもり給ゆへに我をもすてたまハし
而せり梵天四王に帝釈ハ仏の教勅をうけ
奉てふかく正法をまもるかゆへに子細ありて三ケ
しはらくありて志つて身つくろひ久しく只七度の病
ハ我つくりやこの修学をやく大師推信ふ
まかせたの給けり推去七月大明神宮子海にり
て正迹の宝号をとなへ奉る申度まいらせて一紙啓白
せられたりて慈悲大神まかせ給へあはれさとハ此
四万反をハひとへに学問におちて同法ホ乃
行業をたすけんとよ思ふよ跡けり をもとて八本
師の名号を践念して臨終正念上生内院
とくねへよ我兜率にまうでてよりく慈尊
在位のみん為に随つる十六ツ里旬あ奉ハれ の眼も
こさは知りうしらし　日本皇王 慈悲大神
にまうでて念仏のことを御申もねあり抄の事
の門ハ宿習私もよ我をとゝ称するほとの魔界
の不為をなれり魔界ハ念仏を申もゝ縁にあら
事なるへし

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１６－０１８



南都より補僧都に障円とゝ解脱と人
の弟子にて碩学のさゝ也あるゝか魔所
わたらゝ或女人をたゝさて種ゝ化するもの
中にたゝの大明神乃御方便のいたゝさ
こといさゝめも値遇したゝ奉る人をハ
こゝの罪人なりとも他方の地獄へまたゝ
さゝとて善日堂の志ある地獄をこゝの人ゝ

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

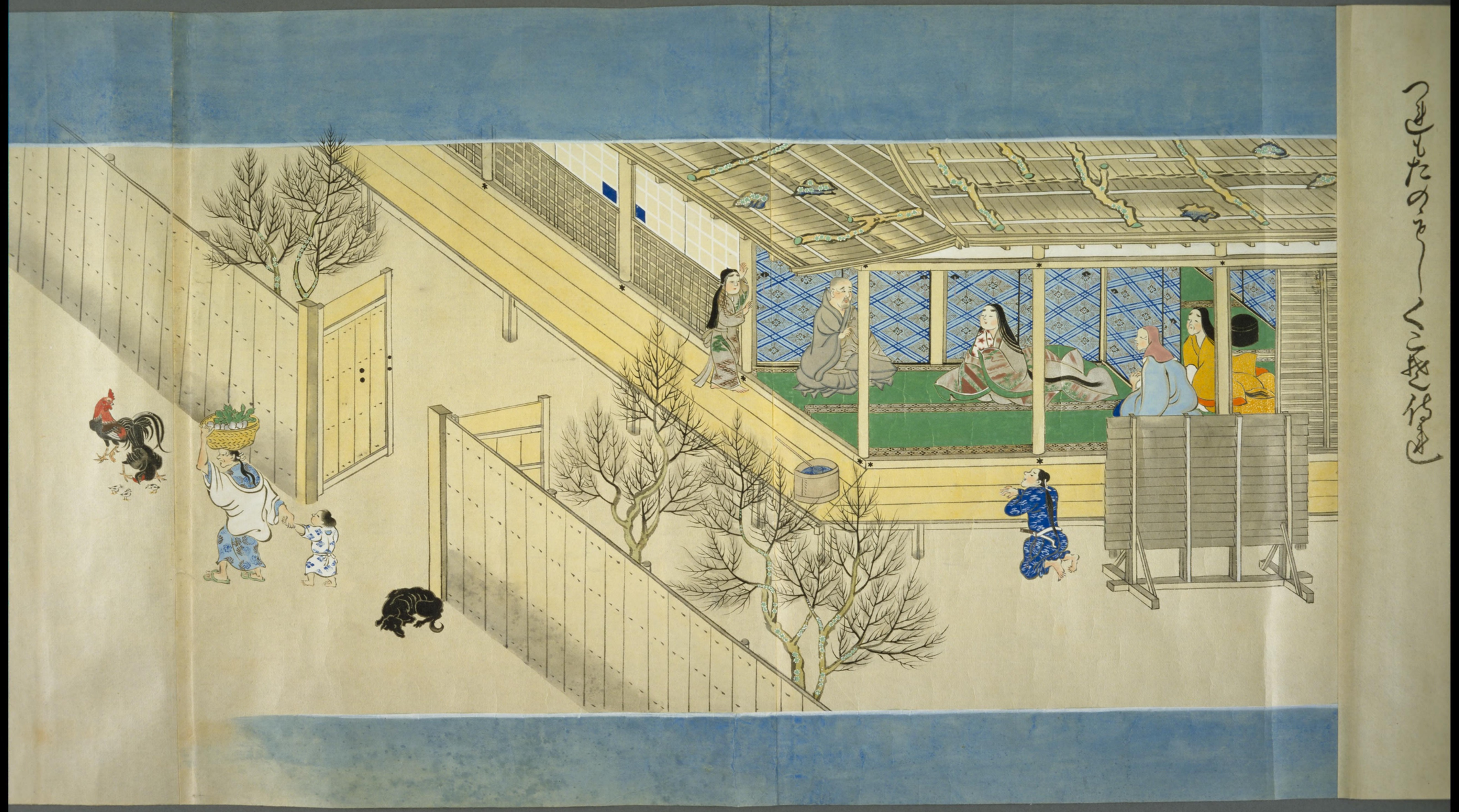
１６－０１９

ことにいたりて値遇したてまつる人をハ
こゝろ罪人なりとも他方の地獄へまゐらえ
さすとて春日殿のおもゝ地獄をこゝ人く
とり入て毎晨朝ハ第三御殿より地蔵
菩薩の儀ゝ恭敬をゝこなゝ教授をゝこなゝ
をゝこさたまくハ一生ゝこゝを此罪人のゝ
入ゝ苦悪おゝこなゝたすけてゝこゝ悪ゝ
位ゝ時大乗経の要文施羅尼なゝを唱奉り
ゝ経ゝと日ゝにをこなゝりゝこの方便なゝく
聞ゝにゝゝひゝゝ仏ゝ法ゝ者ゝ
の来ゝ者ゝとゝふゝゝて大原神社ゝ
経を読ゝゝ論義問答ゝと人ゝにゝこゝ
昔ゝ生ゝりゝゝみゝかゝゝ生ゝゝ由ゝあゝり
大原神の御祝法師なゝこゝをゝけ
ゝくゝゝまゝと語ゝゝ地獄ハ高野山三の御峯
地ゝ獄ゝ殊利菩薩ゝ住ゝ
ゝ多ゝ無仏の道師ゝ属の薩埵也ゝ地蔵菩薩
ゝ通ゝたのゝゝくゝ聚仏

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

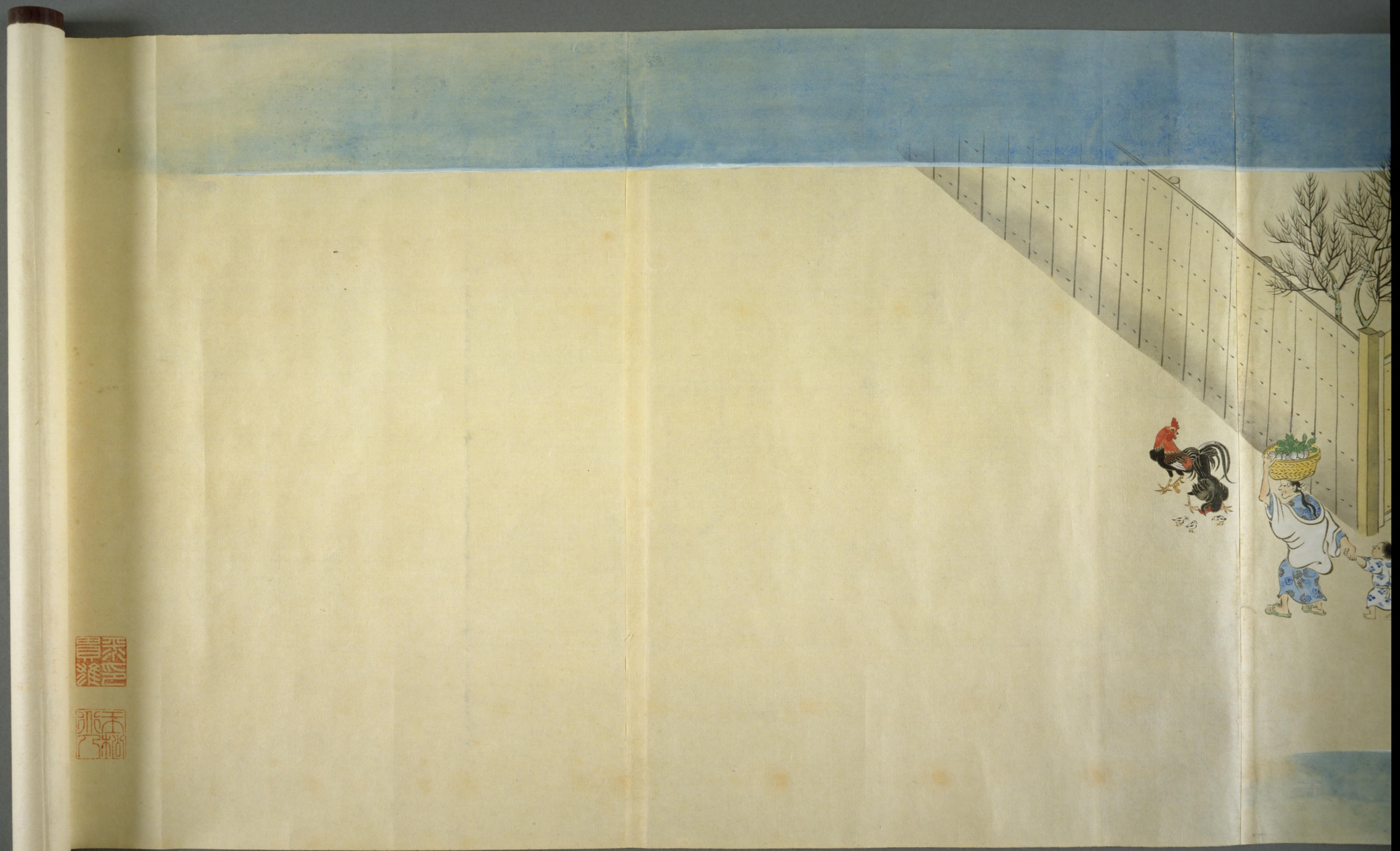
１６－０２０



国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１６－０２１



国立国会図書館